

# 街を行く

第24回 熊谷 Kumagaya

## 暑いけど、ぜんぜん熱くなかった

暑い真っ只中、日本一暑い街を訪ねてきました。暑い街という全国的な知名度をもっと前面に出しているかと思いきやそうでもなく、ラグビー・ワールドカップ開催地の誘致活動の方が盛んでした。県庁所在地以外の都市を取り上げるのは滅多にないことなので、今回は恐る恐るの訪問ですが、恐れていた通り、どころか想像以上の惨状を目の前に、うすら寒くなる思いでした。その疲れ具合は街で自己解決できるものでなく、国の地方政策、政治力を要するレベルかもしれません。とは言え、尖閣諸島や竹島の問題で露呈したお粗末外交、自民や民主の代表選のバカバカしさ。もうこの国に政治なんてないのですね。これまで有力と見られていた大手企業が大リストラを余儀なくされ生死を彷徨っているのを見ると、経済でも弱小国になり下がりがかけています。このような政治経済の状態で、地方都市を救うなんてできるのでしょうか。街おこしと呪文のように以前から叫ばれ、色々な試みがなされてきました。結果はその街から生み出すことより、何かを誘致することが手っ取り早いとなっています。だからワールドカップの開催なのでしょうね。世界の大都市だってその活性化をオリンピック誘致に求めているのですから、無理ありません。

よく話すことですが、地方都市行政の努力にも限界がありますよ。どうして国家でマスタープランを描き直さないのでしょうか。今がラストチャンスかも知れないのに。

その現れは、日本人の持ち家志向の変化に出ています。少々の通勤時間は我慢しても広い一戸建てでノンビリしたいとの考え



暑さよりも想像を超える惨状にノックオンされてしまった郊外都市、ラグビータウン熊谷駅前

から、少しでも利便性を求め都心近くに居たいという流れに変わって来ました。その結果、この街の東京やその近郊都市へのベッドタウンとしての役割が終わったのでしょう。大都市を取り巻く街を寝に帰る所としか考えなかったツケが、今痛いように現れています。

小生ごときにも多くの地方都市からの相談が来ます。一番頭が痛いのがマスタープランを描く前にインフラを作ってしまったこと。日本国内でマスタープランを真剣に描いてつくられた街はほぼないのです。これはアジアの諸国にも当てはまることですが、欧米の静謐な町並みと比べてアジアは雑然としているでしょ？ 最近テレビで世界の街の紹介がよくされるので、皆さんもお気付きと思います。マスタープランをやり直すなら、まずは近隣の街としっかり相談して共に考えることです。

気がつくと「街を行く」からちょっと逸脱して話が熱く語っていました。すみません……。しかしこれから地方都市を歩くには

黙ってはいられません。逸脱すること多いかと思われませんが、それもまた楽しくもあり。よろしくお付き合いください。最後に恒例の食事です。今回は熊谷産小麦の「あやひかり」で作ったご当地の「星川うどん」を食しました。平べったいうどんで、ほうとうの様な、きしめんの様な感じで初体験の味わいでした。

### 南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。

BLOG「南一弘の負けない不動産投資」  
[http://blog.livedoor.jp/minami\\_kazuhiro](http://blog.livedoor.jp/minami_kazuhiro)